

No.	住居所	設	地	委	票	再	他	意見
1	新潟市							<p>1. 両小委員長およびご出席の委員のみなさんうかがいます。 両小委員長はともに、「論議を重ねても委員の意見が一致しない点」は小委員会として見解を一つにまとめないこととありますが、旨の発言をされています。 確かに、諸科学の現段階における知見の限界や検証の技術的限界などから、当面、科学的に並存しがたい複数の見解が小委員会に提出され、しかも、相互に異論を十全に否定しきれない場合、小委員会としてあえて統一的な見解を示さないのは科学的節度をふまえた一つの見識だと思います。 しかし、「県民の安全・安心の観点」から「県への技術的な助言・指導」を行う両小委員会の任務と原子力発電所がもつ潜在的リスクの大きさを勘案すると、「論議を重ねても委員の意見が一致しない点」については、単に複数の異なる見解を列挙するだけでなく、それらのなかで「県民の安全・安心」をはかる上で最も留意すべき見解に配慮をうながす姿勢を示すことが両小委員会に付託された任務にかなうのではないかと考えます。 こうした考え方に対する両小委員長およびご出席の委員のみなさんの見解をお聞かせください。</p> <p>2. 原子力安全対策課にうかがいます。 両小委員会の任務を定めた両小委員会の「運営要綱」第4条は、その第2項に「国の調査・対策委員会等での議論や評価結果について、県民の安全と安心の観点からの確認」を挙げています。 ところが、両小委員会には「国の調査・対策委員会等での議論や評価」に携わっておられる委員がいます、これらの委員は、いわば、ご自身が作成に関わった「答案」を小委員会の場で「自己採点」する形になります。たとえ、これに該当する委員の方々が小委員会の場で真摯に対応してくださったとしても、システムとしては「国の調査・対策委員会等での議論や評価結果」を、わざわざもう一度、県の小委員会が「確認」することの意義を損なうものだと思います。 仮に「国の調査・対策委員会等での議論や評価」に携わった方々の見解をうかがう必要性を考慮した措置であったとしても、両小委員会の「運営要綱」第5条第4項および第6条に、大略、「関係者に小委員会への出席を求めて意見を聴くことや、資料の提出や説明を求めることができる」という規定があり、これらの条項を活用することによって、そうしたことが十分に可能であったと思われるから、やはり、適切性を欠いた判断であったと思います。 自治の観点からみて大いに疑問の残る人選であったと言わざるをえません、なぜ、こうした人選になったのか、その事情をお聞かせください。</p>
2	新潟市							<p>1 「設備・耐震」小委員会委員への質問 東京電力と保安院は、目視点検や漏洩試験、応答解析の結果等から7号機に「塑性ひずみ」はないとしています、ないことが本当に確認できたと考えてよいのかどうか、ご出席の委員のご意見をおきかせください。</p> <p>2 「地震・地質」小委員会委員への質問 F-B断層の長さについて36kmではなく50km以上におよび、M7.5の地震を引き起こす可能性があるとの指摘があります、これについて委員のご意見をおきかせください、また、50km以上、M7.5との指摘があるなかで、36kmのご意見をおもちの委員は、M7.0以上の地震は絶対起きないと保証できますか？ご意見をお聞かせください。 各建屋・建屋の四隅の変動値がばらばらであることについて、東京電力は誤差の範囲であり、原因はわからないとしています。原因がわからないことについて、なぜ今後の安全を保証できるのですか？ご出席の委員のご意見をおきかせください、以上、よろしくお願います。</p>
3	津南町							<p>いつも県民の安全と安心のために御活躍いただき、大変ありがとうございます。かねてから願っていました意見交換会が実現したいへんおりがたく思っています。以下、住民としての素朴な質問をさせていただきます。</p> <p>第1に、中越沖地震の震源となった断層について、佐渡海盆東縁断層の1部であるとしてよいのでしょうか？他の合理的説明があればお聞かせください。</p> <p>第2に、原発の運転再開について、7号機単独でもOKとの話が出ていますと聞いていますが、原発敷地地盤の変形、浮沈について結論が出る前に再開云々が出るのはおかしいと思いますが委員のお考えをお聞かせください。</p> <p>第3に、地震によって、設計限界値を大幅に超えた建物、配管機器類を再使用することは許されるのでしょうか？誰がどのように許可を与えるのですか？</p> <p>第4に、長岡西縁断層がM3クラスの地震を引き起こす可能性を地震予知連絡会が公表しています。中越沖地震はほぼ直下で揺れたために、最初の大きな縦揺れで制御棒の挿入が可能となったと聞いています。離れたところで横揺れが大きくなれば、制御棒の挿入もむずかしいのではないかと心配です。お考えをお聞かせください。</p> <p>付記 かつて、新潟は原発投下の目標とされたこともあったと聞きます。世界最大規模の原発に万が一のことがあれば、その数千倍の死の灰を浴びることになります。 原発投下に至るまで敗戦を認められなかった日本政府は、今また、原発の重大事故が本当に起こってしまうまで、原発政策の盲信をやめることができないのではないかと危惧しています。戦後民主主義は、何の役にも立てないのでしょうか？ 新潟は、東電の言うような、「電気のみならず」とはなりません。私たちのふるさとです。日本の食料庫であり、日本海側の玄関でもあります。安全の保証のない原発は再開はどうぞ断念してください。</p>
4	長岡市							<p>県内各所での開催をしてくれと要望したい。</p>
5	柏崎市							<p>耐震補強工事における想定地震の大きさはマグニチュード8.1であるとの保安院の説明があった。その規模の地震が起きたとすると原子力発電所は健全であったとしても地域の生活基盤は壊滅状態となっていると考えられる。 議論において慎重になるのは分かるが、現在、進んでいる補強工事の安全確認がなされれば早期運転再開をすべきである。 原子力発電所がもたらす経済波及効果は地域にとって欠くことのできないものとなっておりありの慎重論により運転再開を遅らせることは地域経済を疲弊させることになる。 原子力発電は国策であり国が安全を担保し安全性の判断を下した段階で運転再開を容認すべきである。</p>
6	刈羽村							<p>私が生活する柏崎・刈羽地域は、2007年7月16日に発生した中越沖地震、昨今の世界規模での金融危機の影響を受け、かつてない厳しい経済局面を迎えております。 柏崎刈羽原子力発電所の全号機停止という事態が当地域の経済に及ぼす影響は多大であり、策定された基準地震動に基づき、発電所の耐震補強工事が完了し、設備の健全性が確保された後は、速やかに運転を再開していただきたいと切に要望します。 柏崎・刈羽地域と東京電力とが、従来通り共存・共栄を図り、一刻も早く当地域の経済が回復することを願います。</p>
7	刈羽村							<p>・地震後も建屋の沈降があることについて 東電は「原因は特定できない」と言っているが、原因は何か説明していただけないか、原因がわからなければ対策もできないではないか、そのまま再開に進んでいくなどとんでもない 東電は「沈降は小さく、たいしたことはない」と言っているが、配管などの機器に与える影響は無視できないのではないかと、安全は保てるのか</p> <p>・機器の点検について 目視・非破壊検査・応答解析・硬さ測定など東電が行った点検で小さな備やひずみなど地震の影響は全てつかめるのか 7号機でも点検困難場所は170ほどあるが、それらの場所の健全性は運転してみなければわからないのか</p> <p>・技術委員会と県の東電および保安院に対する対応について 地盤について論議中にもかかわらず、国は東電の基準地盤を認め事が進んでいる。委員会や県は「待った」をかけないのか 保安院は小委員会で議論されていることと答えてない(保安院は説明会で「設備・耐震」小委員会のご意見に対する対応)として小委員会における7号機の設備健全性について3つの論点にふれてはいるが論点の核心を避けたまま7号機の健全性の確認を進めている。委員会や県は「待った」をかけないのか</p>
8	長岡市							<p>想定を超えた大きさの地震に遭ったのだから廃炉にする。そういう設計がされているのだから、設計基準を超えたのだから廃炉になるというだけなのに、どうして、いまさら設備の健全性を調査議論しているのですか？ 議論の筋がちがってませんか？ 法律上、原発を立地できるような場所でないのに、どうして、補強工事の計算をして、補強しているのですか？ 補強すればよいのではなく、たてられない地盤の場所です。議論の前提がちがっています。</p>
9	刈羽村							<p>原子力安全・保安院及び東京電力(株)ではF-B断層の長さを36kmとしているが、東洋大学渡辺教授は「地形の変形は活断層と認定されることになっており、これによるとF-B断層は50km以上」と主張しています。 同じ資料で何故このような違いが出てくるのか、また、技術委員会での見解は？</p>
10	刈羽村							<p>県技術委員会事務局へ ・委員会委員の資質について事務局の考え方を聞きしたい。 ・委員は衣装様です。 ・11/22真殿坂断層の現地調査を行った。その時、現地の地質確認もせず、車の話をしていた。又、刈羽平野の公共事業のためのボーリング結果を話したら、あんなボーリングデータは信用ならないと全面否定した委員だ。公共事業を否定することになる。 こんな人を委員としておくに疑問があります。事務局はどう考えられますか。 12/23ラピダで他の質問と合わせて回答いただければ。</p>
11	新潟市							<p>平成19年度7月に発生した新潟県中越沖地震で世界最大級の柏崎刈羽原発は、多大な被害を受けました。 その後の調査で地震の断層や耐震化への取り組みを実施され、中越沖地震を超える揺れにも耐え得る対策が成されるとお伺いし安堵しております。 また柏崎刈羽原発が停止することで、日本の電力発電量は、低下し代価電力として発電量を増加させた火力発電による二酸化炭素の排出量は1億2000万トンとなり、前年比25パーセントも増え、環境への影響も心配されるところで、 そこで、原発の耐震安全性についての質問ですが、原発施設自体の安全性を確保できたとして地震発生後の管理初期体制面、特に緊急対応関係者の動員など確保、整備は、出来るのでしょうか？ 原発自体の耐震安全性は保たれたとしても原発までの道路インフラは、中越沖地震の例を見て寸断される可能性は大きいと思います。 構造や高度なシステムが整備され、機能しても最後は、人による判断や対応に関わる事が考えられます。 地震は、昼夜、曜日に関係なく発生します。有事を想定した人的な管理体制など、この点のご回答をお願いします。 柏崎刈羽原発が、名実とも世界基準と認められ世界一の発電量と世界一の安全性を有する原発に成長することを期待しています。</p>

No.	住居所	設	地	委	票	再	他	意見
12	長岡市							世界一技術力の高い国の第一の電力会社の原子力発電所が停止してしまつたことに地球のエネルギーの凄さを感じたものです。 さて、連日、発電所において火災・労働災害が発生しております。東京電力の高橋所長が「安全優先を心がけており作業工程を急ぐことは決してない」とおっしゃっておりますが、果たしてそうでしょうか、と疑問がわきます。発電所での仕事に就く際は入所教育を受ける必要があるとのことですが、孫請けの会社等火災は大災害(放射線漏れ)につながり人々の生命を脅かすということを真摯に思い考えているのでしょうか、基本を徹底しているのでしょうか、表面上だけでなく今以上の管理システムと全従業員の質の向上を「重箱の隅を櫛でつつくが如く、図るべきである」と思います。 この景気が低迷した中いろいろいな意味において柏崎地域で生活を営む上で発電所の再開を期待しております。
13	柏崎市							運転再開が行われずにこのまま廃炉との話も一部では出ているが、耐震安全が一定レベルで確認されたら、地域活性化のためにも一刻も早く、早期に運転再開を行って欲しい。 火災発生等の事例があったが、中越沖地震の様な緊急時には発電所の対応はまずまずではなかっただろうか？ 運転再開が遅れるとこのままでは柏刈は「第2の夕張」になってしまう。
14	柏崎市							柏崎在住の者であるが、中越沖地震の揺れの激しさの記憶は今も感覚として残っている。震源地により近い所に原子力発電所がある地震でさまざまな被害を受けたとしても当然であると思う。 問題とすべきは想定を超えた規模の地震に遭遇した場合、発電所のシステムが制御不能となるか、安全に停止できるかということである。そのことの重要性から考えると、変圧器火災や道路陥没等の被害発生は容易に修復できるものであり、あまり重要なことではないと思う。ただし原子力発電所のイメージから説明責任という点では事業者、市、県、経済産業省、マスコミとも猛省が必要であると思うが、その後の県の技術委員会での議論は、新聞報道等では活断層の規模や地盤についてさまざまな評価が見られるようだが、隠微のない危険性議論よりも、一定規模以上の地震の際にはともかく安全に停止することのできる発電所を実現することだと思ふ。その点、柏崎刈羽原子力発電所では基準地震動評価見直しにより耐震強化が行われ、安全に停止する技術が確認されていれば、運転再開を早期に実現させるべきであるとする。 県知事は、地震の評価が分かれる小委員会の議論に対し、どう決着付けようとしているのかわからない。最終責任を持つ国が総合の見地から運転再開にゴーサインを出した時、県技術委員会が意見集約できずにいたら、運転再開はどうするのか、はなはだ心許ない。
15	上越市							原発にも「原子力」とかにはなれた火力発電、水力発電などと同じ部分がありますのに、「原発」となると総てを大げさに取上げられ非常に気の毒に同情しています。火力にも水力にも危険な部分がたくさんあります。それを安全に管理整備しているのが電力マンの技術力なのです。一般市民や反対される方にそんな部分を理解してほしいです。定年退職しましたが、東電系の水力発電に永く従事し、燃料電池、風力発電、ガスタービン発電の保守にもかかりましたプロセスで皆様の苦勞が良く判ります。耐えて、しので頑張って下さい。 原子力も「核融合」方式を開発できないのでしょうか。
16	町田市							県民の安全・安心の観点からおたずねします。 設計時の設定を超えた地震動を受けて、機器・設備が健全だったか、あいまいな(グレーゾーン)箇所があります。そこをどうやって、計算ではなくて、ハッキリと安全だと実証できるのでしょうか？お答えください。
17	新潟市							技術小委員会での議論を、県民の安全側にとって考えるのだろうか、県民のかき取りとして対処してほしい。必ずしも学者、専門家がそれをリードできるとは思えない。 1.地震が住民が言ってきたようにとうとう起こった。こんなところに原発を建ててしまった当時の国、学者の責任を問うべきである。問わなければ、再発ある。 2.東電は、数々の改ざんの事例をもつ、それらを設置経緯も含め県民の側から問わなければこの根っこは変わらないと思える。正にChangeである。
18	長岡市							「原子力発電所の耐震安全性等に関する意見」の募集を知りひと申しのべます。 先日、環境大臣が柏崎刈羽発電所の停止が、日本のCO2排出量増加の大きな要因となっていると発言されたとの報道を見ました。CO2の排出量を削減し、これ以上の温暖化を進めないためにも、できるだけ早く発電所の運転を再開した方が良いと思います。 再開にあたっては、安全性の確保は大事なことですが、国レベルでは、地震の想定や発電所の安全性について概ね妥当という評価をしているにもかかわらず、新潟県での検討がなかなか進んでいません。学者の方々のご自身の立場だけを主張なさり、決して交わることの無い議論が続けられているように感じられます。このまま議論が続いても時間がかり過ぎていだけで、解決にならないのではないのでしょうか。 柏崎に原発があるという現実をしっかりと見据えた議論が必要ではないのでしょうか。
19	柏崎市							12/6の渡辺満久氏の指摘にもあったように、海域のF-B断層以外にも陸域、ことに柏崎市街地の伏在断層(弱層)をどのように評価されているのが聞きたい。 併せて、第一種地震空白域はもとより、第二種地震空白域の観点に立って、柏崎近傍の今後の地震活動について、同じくどう評価されるのか、あるいは考えたらいのか、伺いたい。
20	(未記入)							東京電力の地域説明会に出席して、説明を聞いてみて、耐震の安全性、1000ガル対応、地盤対応さらには耐震補強工事など、納得できるものである。従って、準備ができ次第、7号機からの早期再開を望みます。 私は、国が原子力発電所事業については、もっと全面に出て頂きたい。国の出先機関の存在、役割が明確に見えてこないように感じる。 県や市に判断を委ねているところが見受けられるのは残念である。やはり、原子力発電所は、これだけ地球環境が叫ばれているところから国の事業として、より推進していくべきであると思います。
21	新潟市							最近柏崎原発での火災や災害が多く心配しています。復旧作業が難しいのか、作業を急ぎすぎているのでしょうか？復旧作業の進捗について教えて下さい。原発は必要だと思っておりますが、火災や事故が多いと安心できません。安全第一にて確実に作業を進め、安全を見極めてから安心して再稼働できるよう期待しています。
22	(未記入)							日ごろ、電力の恩恵を受けている生活者の立場から一言申し上げます。 原子力発電は、地球温暖化防止に対応するCO2発生量の少ない効果的な発電方法の一つだと思います。その点で日本でも原子力発電は必要と考えます。 柏崎の原子力発電所においては、安全安心(耐震安全性他)をしっかりと確保したうえで再稼働をお願いします。
23	新潟市							2007年7月16日の中越沖地震で、柏崎の原子力発電所が壊れ、放射能が漏れては大変なことになると心配いたしました。しかし、その後のニュース・新聞等を通じて、放射能漏れはなく、基本的な部分は壊れない(壊れていない)と聞き、安心するとともに、日本の技術力の高さに驚かされました。 原子力発電は、日本にとって必要な発電だと思えます。 早急に耐震安全を確保し、安全安心の元で、再開できるようにしてください。
24	柏崎市							今や電気の無い生活は考えられません。資源の無い日本にとっては、原子力発電は絶対必要なものです。 地球環境を考えると、CO2を出さない原子力発電は必要なのはです。 設計値以上の揺れがあった中越沖地震にあっても、柏崎刈羽原発は、安全に停止したと聞いています。 これからも、安全対策をしっかりと実施して、一日も早い運転再開を希望します。
25	刈羽村							中越沖地震で、安全・安心が崩れたのは、学者の先生方の過小評価が問題だったのではないだろうか。 もっと、この地に住む住民のための安心・安全を保障してもらいたい。そのためには、住民の側に立った正当な評価をしていただきたいと思う。
26	柏崎市							柏崎市は原子力発電所と共に40年間共生してきました。もちろん賛成と反対があったわけですが、結局のところ柏崎にとってはプラスになったと私は考えています。 中越沖地震においては基準設定を上回る地震が起きたわけですが、肝心な部分はびくともしなかつたにもかかわらず、それ以外の事でマスコミは地震以来かなり感情的に原子力発電所を批判し続けている事は一市民としてとても残念です。 安全性には留意した上で、これから先も原子力発電所と共に将来の発展を考えていく事が、柏崎市にとって最も重要なことだと考えられます。 第二の夕張にならない為にも、原子力発電所早期運転再開をお願いします。
27	長岡市							私は現在、結婚して長岡市に住んでおりますが、実家と職場が柏崎市にあり、原子力発電所は切っても切れない関係にあります。 今回の中越沖地震では、全号機停止ということになりましたが、これに伴う経済の影響は多大なものであると思います。 原子力発電所が停止ということで、環境への影響も危惧されているとお聞きしました。もちろん、地震時は火災や放射性物質の漏れがあったとすることで非常に心配しておりますが、こういった情報公開や、その後の耐震への工事等の取り組みをきちんと進めていただき、安全性が確保されしたら、速やかに運転再開をしていただきたいと思っております。

事前に寄せられたご意見・ご質問

(18日までの受付分)

No.	住居所	設	地	委	県	再	他	意見
28	柏崎市							<p>こんにちは、 柏崎刈羽原発について、いくつか言わせてください。 まず、小委員会での議論ですが、HP等を見て専門的すぎて私には殆ど理解できません。チラシについても、情報量も少なくやはり良くわかりません。 専門家の先生の話が難しくなるのは当然で仕方ない事と思いますが、それを普通の人々が判るようにするのが事務局の方の努めではないでしょうか。そもそも、こんな状況で意見交換会を開催するという事自体、無理があるのではないかと思います。しかもクリスマス前の祝日の昼間なんて、普通に家庭生活を送っている私のような主婦には参加すると言われているようです！！ 当日も概ね想像するに、反対派の方々から極めて専門的な意見や質問が山ほど来て、噛み合わないやり取りが延々となれ、マスコミさんは「反対や異論が続出！！」の様にセンセーショナルに報道されるだけでしょ。以前、国や電力の説明会に参加しましたが 反対派と思しき方々が次々と質問して異様な雰囲気で、なんだか反対派の方々の為に開催しているだけの様な気がしました。 さて、そこでいくつかお伺いしたいと思います。 (1)県の役割について 原発が安全かどうかは、私のような素人にはとても判断がつく事ではありません、そのために国が法律や制度を決めているのでしょ。もちろん県も県民のためにしっかりと判断して行かなくてはならないと思いますが、国の機関や専門家の知見を超える判断はできないと思います。国がどのような判断をするのか判りませんが、県の役割は、地盤がどうかと言う事を延々と議論しその内容を県民に投げかける事ではなく、きちんと公明正大にチェックがなされたかを確認する事や、国の判断や議論の内容をわかりやすくかみ砕いて私たちに伝える事に重点を置くべきと思いますが如何でしょうか。 (2)知事さんの態度について 最近の報道を見ると、知事さんは原発の話についてとても逃げ腰のように感じられてなりません。 今回の意見交換会に知事さんが出席されるのかどうか判りませんが、是非出席して頂いて、言うべき事は言い判断すべき事は判断すべきと思いますが如何でしょうか。 (3)判断基準について 知事さんは優秀な方ですが、それでも原発の安全性について判断できるまでの知見をお持ちでないと思います。それでも知事さんは安全性について判断をしなければならぬと思いますが、その際には何を以て、安全であると判断されるのでしょうか。安全と判断する判断材料は何なのか、判断基準はどのようなかを教えてください。国が専門家を持って判断する以上の判断材料と知見をお持ちなのか、伺いたいです。 (4)経済効果 原発は確かに中越沖地震という大きな震災に見舞われましたが、安全装置がしっかりと働いて大きなトラブルもなく直ぐに止まりました。なのに、安全でないから廃止しろ！！と大声で騒ぐのか理解できません。原発では多くの市民が職を得て働いており、税金や交付金なども含めて多大な恩恵を受けています。そこで、原発がある事による交付金の額や税収、雇用や経済効果について、わかりやすく説明してください。市税は無理でも県税なら説明できるはずですよ。 原発は柏崎の中心をなす産業です。安全である事が大前提ですが、それが確認できれば早急に再開して頂きたくと切に願います。以上、よろしくお願致します。</p>
29	上越市							<p>原子力発電所が国全体で エネルギー確保 経済性 環境対策等を総合的に国で判断をしたうえで、原子力の安全確保のための耐震対策を含めた基準を明確に決めてそれを早急にクリアする事で、国民全体に再稼働を説明理解できるように強力に進めて欲しい。</p>
30	弥彦村							<p>新聞やニュースの断片的な情報でしか知識はありませんが、活断層がどこまであるかないとか、学者の方の立場によって決まるとか、学術的な議論を行っているように感じます。このまま同じ議論を続けても時間ばかりが過ぎていくだけで、解決にならないのではないのでしょうか。柏崎に原発がある、現実をしっかりと見据えた議論が必要ではないのでしょうか。</p>
31	燕市							<p>1.病院等に使用されるレントゲン(放射線)の放射量 2.一般(自然放射線)太陽含む家電等の放射量 3.核燃料の臨界と発電用燃料の臨界に被爆の差 4.線量に伴う危険度の表示</p>
32	長岡市							<p>[設備健全性] 1)なぜ地震動の一番弱い7号機の評価を先行させたのか、地震の影響という点では、地震動の大きい3、4号機の健全性評価こそが核心になるはずではないか、全体の評価が定まらない状態で、運転再開の議論をいふ必要はないのではないのか。 2)にもかかわらず、残留熱除去系配管、再循環ポンプモーターケーシング、低圧注水ノズルなどの地震応答の厳しい部分の硬さ試験では、小さい塑性ひずみを検出できない限界がある。いずれも原子炉の核暴走を防ぐための最重要配管、機器であり、将来、亀裂に発展する可能性のある問題を灰色のままにしておくわけにはいかない。県は東電に再調査を要請すべきではないか。 [地震、地質・地盤] 1)基準地震動2,300ガルは浜岡800ガルに比べてもあまりにも大きく、驚きをもって受け止めている。地殻のひずみが集中している地帯で、尚且つ海と陸の活断層に挟まれ、地震波が增幅し、集中するような特異な地盤の上になぜ原発を設置したのか。 2)国土地理院の衛星探査から明らかのように、柏崎刈羽平野は活発な地殻変動の域中にある。敷地の隆起によって原子炉建屋は傾いており、基礎岩盤が脆くなっているのではないかと。「すべての建物・構築物が十分な支持性能を持つ地盤に設置しなければならない」という耐震設計審査指針の定義を満たさないことは明らかである。部分的な耐震工事では対応できず、安全は保障されないのではないかと。 3)東電や保安院の活断層評価は基準地震動を決めるという政策的判断を優先させており、将来起こりうる地震について十全な調査と評価を行っているとは思われない。弾性波探査では震源断層を特定できないことが明かになっており、36キロ、M7.0のFB断層評価は、安全サイドに立っているとは言えない。佐渡海盆東縁断層帯も考慮にいたれた70キロ、M7.5とすべきではないか。</p>
33	新発田市							<p>急速に景気が悪化し、解雇や内定取消といった暗いニュースが多い中、柏崎刈羽原発では毎日八千人もの方々が作業に携わっていると聞いています。 原子力発電所が安全でなければならないということは当然の事としながら、その産業が大きな雇用に繋がっていることも考える必要があると思います。</p>
34	上越市							<p>1中越沖地震の震源は確か7～8以上の深部にあるのに、活断層の評価では深部まで調査もせず、また考えずに活断層はないとするのか、佐渡海盆東縁断層は一連の変形した地形であるのに、活断層でないとしたり、超音波で浅いところのみの調査で、活断層でないとすることは、事実と矛盾している 2長岡西縁断層帯のアスペリティのモデルの一つが原発の直下にある。なぜ、直下に活断層があっても、設置が認められるのか。 3先日東京電力の住民説明会では、異常を起こす箇所は分かっており、その場所以外は非破壊検査をする必要がないという趣旨の発言をした。これまでも、大丈夫と言っているが、ひび割れが生じたりしてきた。また、多くのトラブルを起こしてきたことの反省が全くない言葉である。 さらに、今回の地震が想定外というように、計算で想定できなかったことが起こっているのに、設計図や応答解析の計算で実際に調査しなくても大丈夫と考えている。計算以外のことは起きない。「計算が絶対、と考えるのは危険である。きちんと、すべての機器の非破壊検査を行って、塑性変形がないことなど安全を確認してほしい。そうでないと安心ができない。</p>
35	三条市							<p>いまや私たちにとって、電気のない生活は考えられません。 小資源国に住む私たちは、この大切な電気の多くを原子力に依存しています。 しかしながら、柏崎刈羽にある原子力発電所は中越沖地震以来、全数停止しております。 是非、耐震安全性が確認され、一日でも早い運転再開を願っております。 そのことが、地元延いては新潟県全体の振興につながるものと確信しております。 そして、それは復興への証でもあると思います。</p>
36	長岡市							<p>参加申し込み書に年齢を書くことになっていますが、その理由を教えてください。</p>
37	新潟市							<p>原発の仕組みを素人が理解することは正直難しいと思います。専門家の人も反対派の人も何か違う次元で話しているように感じます。既に柏崎には原発があることをしっかりと認識したうえで議論すべきではないでしょうか。環境問題の観点からも原発は必要不可欠です。もちろん事業者の方は安全最優先をお願いします。</p>
38	新潟市							<p>柏崎刈羽原発は確実に地震に耐えたと確信いたします。 日本の電力供給の1/3が原子力で賄われており、その恩恵で、今、現在の生活がある事を国民が全員で考える時ですと声を大にして申し上げます。 新聞テレビニュースの断片的な情報・知識しかございませんが、活断層が何処迄とか延々と云々・・・、学者の方々の立場で決まるとか延々と議論のみで構わない、時間の空費がなされてます。 柏崎に原子力発電所存在は事実です。評論でなく現実もしっかり眼を見開いてもっと真剣な議論を早急にすすべきと存じます。 雇用では八千人にも上る方々が原発で作業する事で生活をして来られました。この問題はどのようなのでしょうか。 「人は生きていかねばならないのです。仕事をして生きるのです。」 是非解雇は100%無しの国民全体が明るさを取り戻す原点を新潟から発信して下さい、お願い致します。</p>
39	新潟市							<p>今年の春に柏崎刈羽原発を見学させて頂きました。 マスコミ報道から原発はとても大きなダメージを受けて停止し、私自身も安全性を危惧しておりました。 しかし、実際に原子炉まで自分の目でみさせてもらい、安全に停止したことがよく理解できました。 原子力発電は温室効果ガスの削減や日本のエネルギー政策に欠かせないものですが、安全性を疑う世論が依然として高いのが現実です。ぜひ一般市民に広く公開して、安全性を自分達で確認してもらってはどうか？ 「百聞一見に如かず」です！</p>
40	十日町市							<p>意見交換会の開催にあたり、一票民として下記2点の意見を申し上げます。 原子力(発)の事故では「放射能もれ」が大きくとりあげられていますが、新聞やマスコミ各社は、いたずらに恐怖心をあおるのではなく、特に安全上問題のないレベルであれば、一般の方が感覚的に判りやすい「ラドン温泉のお湯1バケツ1杯に相当」などの表現にしてほしい 個人の生活だけでなく企業活動の根幹である電力の安定的な供給はとても大事。原油の高騰は今後も発生する可能性があり、電気料金の値上げは切実な問題です。環境問題を含めて、早期に柏崎刈羽原発の運転再開を望んでいます。</p>

No.	住居所	設	地	委	票	再	他	意見
41	新潟市							原子力発電所の耐震安全性に関する意見 地震発生後の原子力発電所を見学した者です。 外観は確かに被害を受けていましたが、発電所の心臓部である原子炉格納容器内はいくら探してもとどひとつ見つからず激震でも十分に耐えられたことを自分自身の目で確認させてもらいました。外観のみの公表ではなく、内部も一般に公開し、原子炉そのものの健全性を広く確認してもらおうことが大切だと思います。
42	新潟市							最近テレビコマーシャル等で、原子力発電所の情報を私達県民に伝えようとする東京電力の姿勢は、以前より評価できるのでは？と感じています。ニュース等の報道で時々見ておりますが、一日も早く再開し、地元の活性化を図り地震から復興した姿を見せてほしいと思っています。 早く耐震安全性を確認してほしいと思っています。 CO2の排出量の問題も含め原子力発電は必要だと考えています。
43	胎内市							地域の方が再開に不安を感じているのは事実ではと思います。 但し、現段階において地球温暖化防止のために原子力発電は大変重要なものであり、これを全て随う代替発電は無いのが現状です。 地震でも放射能漏れは無かった訳であり、東電は所定の耐震補強工事を行ない、各専門家・地元関係者の様々な意見を聞き、出来るだけ早期の再開を希望します。
44	柏崎市							不運にも地震被害を受け柏崎刈羽地域は大変大きなダメージを受けた。このダメージは物理的にも心理的にも大変大きなものであると思います。そんな状況の中で今日復興に向けて着実に進んでいると感じております。原子力発電所も同様であると思います。 管理監督である保安院や原子力安全委員会からは、客観的かつ公正な審査や判断をお願いします。 その判断を受け安全性が確保できたら速やかに運転再開をしていくものと思います。 東京や神奈川にいる知人友人からは復興を心配し期待している趣旨の発言を聞きます。 最も大きな復興の要素として発電所の運転再開があると思えますし、地元としても発電所の発電をしている正常な状態にいち早く戻っていただきたいと考えております。
45	新潟市							原子力は非常に高度な技術を要するものであり、専門用語が沢山出てきたりして、私たち素人には非常に分かりづらくするのは仕方ないと思います。せめて新聞やテレビなどのマスコミの皆さんは、公平な立場で正しい情報を提供してもらいたいと思います。
46	刈羽村							立石先生質問、現在の水面より、12.5万年前のMIS-5Eは+5m、これより(MIS-5Eより)水面が高かったとはあったか、あったとすればそれはいつのことか。 東電は、西元寺Loc-b露頭が10数mにあるのは、地すべりの為(5万年前)と主張、保安院も安全委も追認。どう考えるか。又、Loc-bから柏崎方向に10数mの高さで村道沿いに約200m位「岩砂=番神砂層」が存在する模様、確認してほしい。大塚山等の番神砂層との落差(約30m以上)は、どう説明するのか、地すべりは、個人的にはありえないと確信しています。
47	柏崎市							発電所の運転再開に当たり、2つの小委員は開かれ討議されていますが、率直に言います。地元地域の声もふまえて討議が行われているのでしょうか。また、昨年の中越沖地震において残念ながら火災を発生させたものの、実際には運転していた原子炉は正常に機能し、問題は生じなかった。すばらしいことではないでしょうか。 県知事殿、今現在の県各各地域の問題をよく考えてみて下さい、あなたは新潟県の最高トップなんですよ！！いち早く発電所再起動を実現させ地元地域に活性化をお願い致します。
48	新潟市							今回発生した地震では、各所で甚大な被害が発生しており、原子力発電所に近い活断層で発生した地震だったことを考えた場合、地元の方には大変申し訳ないが、よくあの程度の被害で済んだというのが率直な印象です。 また、想定をこえる揺れにも原子炉は全て無事停止しており、保安システムが確実に機能したという実績は、逆に、私の原子力発電所に対する不安を払拭するものでした。 経済情勢の混迷が日増しに深刻化する中で、比較的安価な電力供給は必要であり、また、環境配慮という点でも原子力発電の優位性はあると思います。 今回の地震を教訓にした安全基準と管理体制の構築、設備点検結果に基づく修繕、耐震補強工事を行い、早く原発の運転を再開した方がよいと考えます。
49	刈羽村							意見1 建設のための調査・審査に誤りがあり、中越沖地震の大きな揺れ、地殻変動を想定できなかった。その責任は設置許可を申請した東京電力と、その申請を認めた国にある。 地震後の県の委員会に、設置許可の審査に関わり、誤った判断をした人物を選任した、新潟県の体質に不信を持つ。 信頼される行政のためには、前科前歴を持つ委員は解任する必要があると考える。 意見2 他に比較して著しく大きなSsは柏崎刈羽が原発不適地であることを示している。 他と比較して柏崎刈羽の地盤条件、地震条件を県民に示して欲しい。東電は不都合な事実は調査せず、発表していない。全ての情報を公開した上で、議論がなされ、判断するのは県民である。 意見3 地震時に原子炉建屋・タービン建屋が不同隆起した。地震後も、隆起や沈降が続き、原子炉建屋・タービン建屋が揺れ動いている。こうした事実は他の原発では確認されていない。東電は傾きが何千分の一で問題ないとの宣伝のみで、県の委員会では議論がない。 この問題を議論して欲しい。 意見4 柏崎平野の洪積層基底は-120mより深く、段丘面は50mより高い。海水準変動幅は120m程度であり、後期更新世の地殻構造運動はないとする東電見解は誤りである。 東電の設置許可申請時の海底調査では沖合いの洪積層基底は-70m程度で平野が沖合いより深い。 この問題を議論して欲しい。 意見5 設置者東電の調査報告を審査するだけでは不十分である。なぜなら運転再開に不都合な事実を調査しないからである。 中越沖地震の真相解明と柏崎刈羽の地質・地盤・地震の真相を解明して欲しい。
50	新潟市							柏崎刈羽原子力発電所が震災によって今なお運転停止の状態のままであることを憂慮している者です。 今年7月の洞爺湖サミットで「原子力の重要性は国際的に共有され、原子力発電を国家戦略とする」ことが明らかにされたというにも関わらず、世界一の規模を誇る発電所を未使用にしたまま放置している現状を嘆いています。 そもそも国家的戦略であるはずの「原子力の平和利用」を国が解決せずにいること、さらに県が小委員会なるものを設けて今まで安全性に関する評価を議論し、ただいたずらに時間を費やしていることに疑問を覚えています。 国が原子力の安全性を最優先に考え評価をすすめている時に、県の委員会は何かの意味があるのか質したい。新聞報道をみても選ばれた委員の中には慎重論を唱えるばかりで議論も進捗せず、また意見も食い違い平行線のままだといわれています。 県民の意見、特に地元の方々の意向を聴取することで、国に結論を出すよう働きかける段階なのではないでしょうか。今回の意見交換会を有意義なものとして意義づけ、日本の原子力のあり方などの建設的意見を議論する委員会であるべきと考えますが…。地球環境に優しいエネルギーとして認知されている原子力発電の早期再開のための議論が高まることを期待しています。柏崎刈羽原子力発電所が停止している影響は、日本の二酸化炭素が2%も増加すると言われています。運転停止が地球経済を疲弊されていることに委員各位は肝に銘じ真剣に論議していただきたいと願うものです。 末尾ですが、安全・安心なエネルギーの確保に日夜奮闘されている関係者の健康を祈念しております。
51	新潟市							現代になくてはならないエネルギー源であり、地域発展にも貢献している事、この二つをテレビ・新聞でたくさんアピールする事が柏崎刈羽発電所の再開につながると思います。それと火災等に関して安全性のチェックは厳しく考えます。
52	新潟市							柏崎刈羽発電所の運転再開は中越沖地震からの復興のシンボルだと思う。風評被害をなくし、地域の観光や農業、漁業の振興のために、早く耐震安全性を確認して欲しい。
53	五泉市							県のホームページで意見募集しているのを知り、ペンを取りました。 新聞、テレビでは柏崎刈羽原子力発電所7号機の復旧工事すみ、国もIAEAも発電所の安全性については、評価しているとの報道があったようですが、新潟県はどこまで検討が進んでいるのでしょうか。原子力発電所の停止でCO2排出量が増加しているというのを聞きましたが、国策だと言っている原子力に県はあまり真剣に取り組んでいないように感じます。柏崎原発には多くの方が働いていると聞きますが、それらの方々は実際はどう思っているのでしょうか。電気料金も1月から値上げになるようですが、これも原子力が停止したので、代わりに石油を使う火力発電所が稼働したことが要因と聞きました。今、国内は不況により解雇不安が現実化しています。世の中にリスクの伴わないものは無いと思っておりますが、小さなリスクに固執して地球破壊という大きなリスクを見逃すことがないように期待しています。
54	上越市							柏崎原発では一日に8,000人の作業員の方が働いていると聞いております。耐震安全性の確認を急ぐとともに世界大不況と言われるなか、雇用確保の面から早期の原発運転再開を望みます。
55	新潟市							柏崎・刈羽発電所の停止は、現在世界中で問題にされている。CO2の排出量増加の大きな要因になっていると考えます。一刻も早い再開を望みます。 原子力については、一般の住民には高度な科学的な知識もなく、心をこめた説明でも理解できる人はあまり多くはないでしょう。とくに柏崎・西蒲一体は自称人権派の主張の強い地区です。それが一般の住民の正しい状況認識と判断をさまたげているように思われます。国・県・市一体となり運転再開の要因の整ったことを自信をもって示し、一日も早い再開を願っています。

事前に寄せられたご意見・ご質問

(18日までの受付分)

No.	住居所	設	地	委	票	再	他
							意見
56	新発田市						柏崎刈羽発電所の運転再開は、中越沖地震からの復興のシンボルだと思っております。風評被害をなくし、地域の観光や農業・漁業の振興のために早期に耐震安全性を確認すべきと思っております。同発電所では今、8,000名もの作業員が働いていると聞いております。不景気で解雇や内定取消といった報道が多い中、原子力発電所が大きな雇用を生み出していることも目を向けるべきと思っております。
57	新潟市						専門的な知識を持たない県民が原子力に対して正しい理解ができるのはかなりの時間がかかると同時に、東電側もいかに解りやすく今の状況を伝えるか努力しておられるのだろうと思います。誰もが求める安全と安心は県民側、東電側、双方の理解し合おうという努力から始まるものだと思います。
58	新発田市						新潟県中越沖地震以降、県による委員会の設置・運営については新聞報道で読む機会はあるものの、HPなどで公開されているのですが、新聞広告を使うなど、広くもって県民に情報が伝達できる工夫が必要ではないでしょうか。東京電力も新聞広告・テレビCMなどで現在の復旧状況をPRしていますが、もっと分かり易い表現が必要に感じます。特に原子力はまだまだ専門用語が多く、一般の我々では理解できない部分があります。また、国への報告は報告として、一般の我々に説明する時はもっと分かり易い言葉に置き換えて欲しいものです。県・東京電力にしも更なる情報公開、PRに積極的に努めて欲しいものです。
59	新潟市						1.耐震・安全性についての評価が専門的で私を含めて分かりにくい。専門家の意見も食い違いがあり、各々の意見の異なる部分を両論併記する等分かり易く教えてもらいたい。 2.電気事業者である東電の耐震性・安全性に関する考えと技術委員会の考えは、どの点で異なるのか。 3.日本のエネルギー事情や環境問題を考えれば原子力は、必要不可欠のものと思われず、原子力発電を継続させるための安全性の基準を一般人の人に従来以上に分かり易く理解させる教育活動が必要ではないか。
60	新潟市						原子力発電所は、火力・水力・地熱等の発電所とは、原動力の違いによって、夫々の危険性は何ものにもあるわけですが、原子力の危険性は放射能・放射線にあるわけですが、これが外部に出なければいけません。日本人は特に原爆のイメージがありますが、原子力発電所の原子炉とは、原理的に違いますし、核分裂連鎖反応の原理は同じですが、発電の方は制御棒(中性子を吸収する)で制御するということが、根本的に違うわけですが、放射能を閉じ込める5重の壁、があります。ベレット・被覆管・原子炉圧力容器・原子炉格納容器・原子炉建屋で厳重に閉じ込め隔離されています。原子炉の固有の安全性(自己制御性)ということがあります。安全性確保のしくみとしては、「事故の発生防止」…「余裕のある安全設計」、「フェイルセーフ(安全側へ作動)・インターロック(誤作動防止)」、「事故発生、拡大防止」…「異常を早期に検出する装置」・「自動的に原子炉を停止する装置」・「周辺への放射性物質の異常放出防止」…「非常用炉心冷却装置」・「原子炉格納容器」・「運転員の教育訓練」等々の安全対策は何重にもされているわけですが、人間社会では法律・規則で縛られているにもかかわらず、失敗・事故は無くありません。本論は「耐震安全性」ですが、「原子力発電所の地震対策」としては、「基本的な考え方」…その地方で起きる可能性のある最大の地震がきても、一般の人々に放射線の被害を与えないこと、ということで、「設計方針(安全上重要な施設)…」1.一般の建物に対する建築基準の3倍の地震力に耐えること(静的地震力) 2.その地方で過去に起きた最大の地震に耐えること(動的地震力) 3.地盤の状況からみても将来おきる可能性のある最大の地震に耐えること(動的地震力) 4.原子炉建屋など重要な施設は、地震がきても揺れの少ない岩盤の上に建てること 5.ある程度以上の地震がくると、原子炉は自動停止する設計とすること。ここで問題は「活断層」のことですが、これは避けるという表現になっていますが、距離の影響力がはつきりしません。新聞投書で問題だと思ったのは、スリーマイル島・チェルノブイリなどの事故を思い起こしていますが、日本の原子力発電所は基本的に違っていて、あのような事故は有り得ないということ。「原炉」について「国民投票、をという意見がありました。こうい意識で国民投票したなら、取り返しのつかないことになりましょう。マスコミの報道は大変な責任があると思います。「風評被害」ということが、よくいわれますが、マスコミの影響が大きいものがあります。3号機所内変圧器の火災・ケーブル部基礎が沈下して、変圧器の絶縁油が漏れ、ショートで発火したもので、防火壁で延焼はなかったのですが、黒煙の上がっている状態のTV映が長かったので、原子力発電所の火災として驚異を感じさせました。確かに時間的に長過ぎました。普通変電所だと「化学消火器」が備えてあるものなので、どうしているのかと誰もが思ったことでしょう。単なるトランスだけの火災で原子炉関係には関係ないことを報道してもらえば良かったと思います。6号機水漏れにともなう放射性物質の海への放出・使用済燃料プールの水が地震の揺れであふれて、密封不十分のケーブル貫通部を通じて漏洩し、放水口から放出したもので、水の量は約1.2m3(立方メートル)、放射線量は約9×10 ⁴ (10の4乗)ベクレル、これによって受け被ばく線量は約2×10 ⁻⁹ (10の-9乗)ミリシーベルト(人が1年間に自然界で受ける量の約10億分の1)。7号機主排気筒モニタからの放射性物質の検出・原子炉自動停止後、タービン・蒸気排気機の停止操作が遅れたため、復水器から排気筒を経てヨウ素や粒子状放射性物質が大気へ放出された。放射線量:約4×10 ⁸ (10の8乗)ベクレル、これによって受ける被ばく量は、約2×10ミリシーベルト(人が1年間に自然界で受ける量の約1,000万分の1)以上のような内容で6号機・7号機から放出された放射性物質による環境への影響はないとされています。
60	新潟市						こういう内容がマスコミによって報道されれば、風評被害もないのでしょうか、内容が解らないままに受け取るの、思い込みになるわけですが、以上、地震による被害、問題点を資料から記載したわけですが、今回の地震で発電所全体が日常説明されている通りに「自動停止」し、運転員が適切な操作行動をされたことに感心を敬意を表する次第です。復旧作業は大変なことと推察しますが、人身災害や火災事故など、防止の注意がされておりますが、約8,000人もの人達が行動されているわけですから、無事故でということも、大変なことですが、今後無事に全機運転再開されることをお祈りしております。今回の地震によって東京電力さんは、大変な損害を被りましたし、地方自治体も国も大損害を受けています。もう一つ柏崎刈羽原発が停止しても電気を停止しなくともやれるから、原発は無くともいいのではないかという人がいますが、古くて停止中の火力発電機を動かしたり、他電力からの融通を受けたら、大口需要家の使用制限などで、苦しい運用でなんとかやっていることを一般には理解されていないようです。CO2も増えているでしょう。「原子力発電所の耐震安全性等に関する意見」ということですが、専門的なことは解りませんが、以上のようなことになりました。結論的にまとめれば、耐震安全性については、活断層が問題にされていますが、隔離距離はどれくらいあればいいの、今更発電所を移転するわけにはいきません。ある地震学者が新聞で発表していましたが、原発が無事に停止したことを、どう評価するかの質問に対して、「止まるのは当然だ、今回は地震学的にみて幸運だった、震源域がもう少し南西で原発直下だったり、今回はマグニチュード(M)6.8だったけど、1964年新潟地震並の(M)7.5だったりしたら、震災と放射能災害が重なる「原発震災」も起こり得た。際どいところですり抜けた」と答えました。私は新潟地震を直接経験して、電力設備の復旧作業を担当しましたが、「石油タンクの火災」と4階建Aパートの傾斜、が印象的で、変電所・配電線路などは、「流砂減少」の水による被害でした。中越沖地震や中越沖地震のように家屋の倒壊などは、聞いていません。Aパートの傾斜は4階建てなのに基礎が1m位しかありませんでした。耐震性については、考えられる震度に耐えられる可能な対策をするよりありません。それを今やっておられるのだと理解しております。情報の提供については、できるだけ発表して戴きたいのですが、企業ですから、また最近ではテロ対策という問題もあります。全てというわけにはいかないと思います。しかし、原子力に関わる設備については、事故ではなくて故障的なものまで公表を求められるように思われます。火力発電所などでも、よくあるような故障は原子力発電所でも受けるだろうと思います。それだけ原子力発電所は注目されており、事故は出してはならないのだと心せよというように受け取られる可能性があります。マスコミ対策ですが、風評被害にも関係しますので、問題点の情報提供はしませんが、「隠した」と直ぐ言われますので、提供すべきですが、その際に資料に付け加えて、例えば、前述の「放射性物質の放出」のような場合には、自然界で受ける量についても説明されて、そう同時に発表されるように、風評被害防止のためにもということで、お願いするようにして戴きたいと思います。原子力発電を反対される方々の、ではどうすればいいのに対策を聴きたいと何時も思うのです。エネルギー対策は、食料にも関係しますし、地球環境はどうするのか、昔の状態の生活に変えるのか、このままでは、地球上の生物は滅亡するのではないかと、心配しております。もう少しグローバルに全体のことをみんなで考えていく必要があると思っております。反対意見の人に機会があればお聴きたいと思っております。以上、適当な意見にはなりません、申し訳ありませんでした。日頃思っていることを述べただけで、参考にもならないと思います。
61	村上市						柏崎刈羽原子力発電所の運転再開に関しては、地域の方の不安は理解できますが、一方で雇用や税制面での地域における経済的メリットもあるのではないかと思います。また、二酸化炭素を排出しないという環境面でのメリットや、電力の安定供給に向けては、原子力発電所の機能は必要であると思います。地震対策に万全を期し、またその内容を十分に説明した上で、運転が再開されることを望みます。
62	新発田市						原発停止に伴い、他の火力発電所で足りない電力を補うため、多くの原油・天然ガスなどの化石燃料が必要になります。一時より原油価格は落ちついてきたとは言っても、予断は許さないと 思います。今後、原油価格が高騰すれば、その分のコストが電気料金値上げにつながるため、長期化すると家計の負担も増えていきます。夏場の電力消費ピーク時には、電力不足も懸念され、これ以上の火力発電への依存を続けると、CO2の削減目標達成にも影響して来ると 思います。きちんとした安全管理体制を確立し、できるだけ早期の再開を要望します。
63	柏崎市						原子力発電所の耐震安全性に対して意見させていただきます。中越沖地震後に発電所の見学をしたことがあるのですが、想像していたよりも地震による被害が見られず驚きました。マスコミ等で報道されていた火災が起こった現場や陥没した道路などを見て、構内はどんなに酷い被害なのだろうか?と思っていたのですが施設の内部に亀裂などは無く、どこにどのような被害があったのかは説明していただかないと分からない程度であり耐震性もマスコミで報道されるほど心配するものではないのでは、と感じました。しかし、地震がおき、被害が発生したことは明らかな事実ですので被害の復旧と耐震性の更なる強化を図っていただき、また私たちの生活と深くかわりがある発電所は速やかに運転再開して頂きたいと思ます。
64	柏崎市						1 佐渡海盆東縁断層の北方部が断層でないとする根拠について(海上音波探査の精度) 2 同様に、東電の言うF・B断層が33kmで終わっているとの根拠について
65	新潟市						最近の行政のあり方に疑問を感じている市民です。それは、目的と手段のあり方を考え違いをしている事です。例えば、原子力発電所の耐震安全性等に関してですが、発電所は運転してエネルギーを供給することによって始めて目的が達成されるもので、安全性は手段なのです。安全性のみを目的に追求していたのでは何も進みません。国の経済対策はエネルギー供給を大前提にして各々の手段をチェックすることが大切だと思います。日本経済が世界に太刀打ちするには安定したエネルギー供給が出来るかどうかです。世の中は絶対はないのですから、経済の安定を求めるなら付帯事項(不安定要素)は認めない近代化はありません。電気は必要だが発電所の運転は危険だでは世の中矛盾しております。保険はみんなで引き受けるべきです。「柏崎の原発」は、学者や評論家の議論のための議論ではなく、もっと成果のある議論が必要です。エネルギーも働く場も必要です。早期の運転を希望します。!!

No.	住居所	設	地	委	県	再	他	意見
66	刈羽村							断層、地質等の詳しいことはわかりませんが、確かに地震で被害は多くありますが、本当の予測はだれでもできません。 中越沖地震は、震源地が非常に近いにもかかわらず、大事故はおきなかった。 我が刈羽村は家の倒壊などたくさんありました。原子力発電所は3原則にもとづきちゃんと機能してくれたことは素晴らしいことだと思います。 なおかつ東京電力も耐震構造に補強しています。いままで以上の原子力発電所になると思います。私ははたして不安ではありません。準備が整い次第早く稼働することを切に要望いたします。 地元の発展、国益すべてにかかわりを持っているので宜しくお願いいたします。
67	刈羽村							近年、日本列島はしばしば生活環境を破壊する地震にみまわれています。地震で被害をうけ、そして点検不可能な箇所もある柏崎刈羽原発の再稼働には強い不安をもっています。いつ今回のような、又はそれ以上の強い地震にみまわれるかわかりませんが、県の委員会では稼働などに慎重な学者の意見をよく考慮して、私たち住民の安全を第一に考えて討議してください。私はやはり「支持性能をもつ地盤」に立地していない柏崎刈羽原発は廃炉にしてほしいと思っています。そうでなければ安心して生活できません。 7号機について、約170もの点検不可能な箇所があるというのですが、(東電は代替点検等により異常がないと判断したとの説明をしたということですが、それはあくまで代替です。)そのように170の点検不可能な箇所を有す7号機を「起動試験」させることに強く不安を持ちます。何か起きましたらどのようにしてくれるのでしょうか。
68	柏崎市							住民の意見など千差万別。 国は自らが選択したエネルギー政策に基づいて、即刻運転再開の指示を出してはいかがでしょうか。 そもそも、資源のない日本で、しかも化石燃料の将来が限定される中、原子力を安全に利用するという基本理念での政策だと思えます。 しかも、日本の原子力発電所の設計思想は、安全最優先、緊急時には「止める、冷やす、閉じ込める」というものです。 今回の中越沖地震では「想定外の揺れ」という言葉が、世間をにぎわせました。 それではその「想定外」に対して、設計思想は崩れたのでしょうか。 そうではありません。「止める、冷やす、閉じ込める」は見事に機能していたのです。 残念ながらこの評価は片隅に追いやられ、「安全神話崩壊」とまで断言し、危険性を煽る状況が世の中を支配しているのは残念でなりません。 柏崎刈羽原子力発電所の7基が停止しても、電力需要が落ちるという事ではありません。代わりにその役目を終えたエネルギー効率の悪い火力発電所が運転を再開し、結果、二酸化炭素排出量が2%上昇し、京都議定書の数値目標を断念したとも聞かれています。 国際的な約束を守るため、資源のないわが国のエネルギー源を確保するため、他に有効な手段がないのなら、耐震云々ではなく安全を確認し、国が即刻運転再開の指示を出してはいかがでしょうか。
69	柏崎市							1 柏崎刈羽原子力発電所は大きな中越沖地震に見舞われましたが、原子力施設には影響がありませんでした。 F - B断層が震源とされますが、一度動いた断層は、2万年は動かないと聞かれました。現在、F - B断層を基準地震動の算定に使用して、基準地震動を定めています。他の断層ならこのような大きな想定は不要ではないですか。 2 例えば、他の施設で高速道路、新幹線等は線状に伸びているので、活断層を横切る場合があると思いますが、こういう場合は、どのような評価がなされているのですか？ 柏崎刈羽原子力発電所同様、近年動いた断層に対しても、地震を想定して耐震設計をするのですか？ このような施設は、地震に対しては、原子力施設以上に敏感で、線路、道路の橋樑、トンネルが損傷すると大災害になるもので、共通の耐震への考え方になるのだらうと思えます。 3 長岡西線断層帯、真殿坂断層等陸上の断層が議論されていますが、本当にこの100年の間に地震を想定しないのですか？それなら、国、県は、その上に住んでいる方々を立ち退かせる、新たにその土地を購入する方に危険ですと示す必要があるのでは、無いのですか？ これから100万年、1千万年の間にはどこにも地震くらいあると誰もが思っていますから、地震の恐れがあるというのは、専門家でない人が言っても納得されます。活断層で地震が起こる可能性があり、発電所の耐震性に考慮しろというなら「地震が起こる」ので、この活断層上の家は、撤去しなさいと、勧告すべきでしょう。 4 日本はエネルギー資源を海外に頼り、中東・日本間を100万トンタンカーが運航しています。タンカーの乗組員は、ソマリア沖、マラカ海峡を海賊、暗礁の危険のなか、大量の重油を日本に運んでいます。こうしたリスクを担う乗組員のような方々がいて、我々県民に電気が供給されています。県民の中には首都圏を停電させ、首都圏に感謝させると言う人がいますが、では、首都圏に住むタンカー乗組員は新潟県を停電させると言っつよいのでしょうか？ それぞれが、それぞれのリスクを負うことによって、現在の豊かな生活を営んでいることを理解すべきで、柏崎刈羽原子力発電所は健全性が保安院により確認された次第、運転を再開し、石油から始まるエネルギー・電力供給県新潟の素晴らしい役割を果たしてもらいたいと考えます。 7、8年前でしようか当時の福島県知事が福島原子力発電所についての再審議が行われた時、意見公募に対して、「もう一度、考え直すとは、何を考えるのか、当時、苦悩しながらこの地域のためにと考えて誘致したのである。」というような意見があったのを思い出します。当時、今以上に原子爆弾の被害の衝撃が強烈であった時期に開発段階の原子力発電所を勉強しながら、出稼ぎに出なければならぬという過酷の地域をどうしたら良いのか、考え、決断された方の責任感、思いを強く感じました。 そして、当時の柏崎市助役長野さんの著書を読んで、ここ柏崎刈羽の地で、同じように苦悩の中、地域のために一命を賭して原子力発電所を誘致して地域の発展を計られた方々を知りました。 また、多の方が賛同され、支持をされたことも、現存される方のお話も伺い、当地への尊敬の念を大きく致しました。 地震では、耐震性と同時に、運転も大事な要素ですが、今回の地震では、東京電力は運転上も優れた技術、マインドを発揮、機械学会で表彰されています。 これは、日ごろの訓練と6年前の8月29日以降取り組んできた原子力再生、信頼回復活動の結果であると思います。 また、東京電力の柏崎刈羽原子力発電所所属員だけでなく、本店、そして、プラントメーカーの工場エンジニア、保守点検作業員、保守点検企業社員も、それぞれの職場で、安全が確認されるまで夜を徹して対応に当たっていました。 柏崎刈羽原子力発電所は、国、自治体始め、多くの方が支えています。原子力発電所に反対の方もいらっしゃいますが、心配される原子力災害を起こしたチェルノブイリ事故の経験と異なるBWRは制御性に優れた炉型であることをご理解頂きたいと思えます。これまでの歴史で工学、技術は100%ではなかったかも知れませんが、それぞれの段階でよりよい選択、改善の道を歩んで来たと思えます。 この柏崎刈羽原子力発電所の健全性が確認されれば運転再開され、生活に必須な基礎設備として活用されることを当地の先人の英知を敬い、思いに身を戒めながら、願うものです。
70	柏崎市							耐震工事に携わっているプラントメーカー社員として意見を申し上げます。 1. 7号機の工事を終了して思うこと 弊社が耐震安全性工事を最初に手掛けた号機は7号機で、今年6月から着工して11月3日に終了しました。今回、初めて経験した工事の実績は、今後の5号機および4号機に係わる同工事に生かしてまいる所存です。 中越沖地震で観測した揺れは、7号機では356ガルでした。耐震安全性の揺れを約3倍弱に相当する1000ガルに設定した耐震安全性工事は、各所配管を支持する構造物の大幅なサイズアップにつながったと並びに工事箇所が、膨大な数に増加した文字通り大工事になりました。工事が終了した現在、改めて現場をパトロールするたびに、中越沖地震の規模の地震が再発することを予想しても、7号機は微動だにすることはないと確信します。 2. 運転再開に向けて 本発電所が停止したことで、給電対応として火力発電所を運転したことにより、4%のCO2の増加につながったと聞かれます。このことは、地球温暖化対策である京都議定書で我が国が義務づけられたCO2削減目標に明らかに相反する結果になっています。 これから厳冬季にかけて、暖房のために火力発電所の運転を継続すれば益々、地球温暖化の促進につながり悪循環に拍車がかかることを、皆が今こそ、真剣に考える時だと思います。 ここ数年の気候変動は、確かに何かが変わってしまったように感じています。私たちが幼子だった日、少年だった頃は、四季の鮮やかな区別があり、夏の暑さ冬の寒さももって自然でいました。夜明けと夕焼けは今より、もっと自然の色だったように記憶しています。 これ以上、温暖化を加速させないためにも、原子力発電をできる限り早期に再開することが、地球温暖化に歯止めをかけることに大賛成いたします。
71	刈羽村							号機ごとに耐震安全性が確認されれば、順次、運転再開をするべきだと思います。 各号機の点検結果で得られた知見は他号機にも反映されるべきですが、全号機の調査・点検終了を待ち比較検討してからというのは、合理的ではありません。そもそも、仮に1基しかなければ比較検討も出来ないわけですし、設置許可等号機ごとに行われています。 地域住民として、出来るだけ早く安全性を確認し運転再開されることを期待しています。 柏崎市長や刈羽村長も同様の発言をされており、これが地元の大多数の意見だと思います。 技術委員会の活動に敬意を表しますが、意見がまとまらないときは両論併記とさせていただきます。 地域に住む住民として、今回の中越沖地震に際してはやはりいっしょに柏崎刈羽原子力発電所の状況を一番に心配しました。しかしながら安全に停止し、要である「止める・冷やす・閉じ込める」の原子力安全の本来の機能が保たれた事に安心致しました。
72	刈羽村							私たちのような一般市民にとっては原子力の安全性はとても高度で複雑な専門分野であり、なかなか理解出来ないのが通常です。 今回の耐震安全性に対しては事業者である東京電力の説明を度々聞かせていただきましたがそれなりに解りやすく、理解出来たと感じています。 しかしながら、原子力安全に関しては基本的には国が安全性を担保するものと理解致しています。 願わくば、国の安全性に対する評価がでた後に県としても早急な対応にて地域の理解を経て一日も早く本来の発電所のもつ健全な姿に復帰できますよう期待しています。 電源立地地域の健全な姿が本来の地域振興、環境問題に大きく関与しています事も合わせてお話し致します。
73	新潟市							最近2回ほど、東京電力柏崎原子力発電所を見学する機会があって、炉心下まで入ったことがあります。たしかに先回の地震で あれだけの力が加わったのに 安全に停止し、安全システムは信頼、評価されると思えました。 また、重要な設備は一見したところまったく損傷があるようには見えませんでした。 ただ、大変な力が加わったのですから、ぜひ機械的点検は慎重に進めて欲しいと思います。 耐震問題ですが、それぞれ専門の方の意見があり、一般の人が結論出せる内容ではないと思いますが、ぜひ議論されて、その内容はすべてオープンにしていきたいと思います。 二酸化炭素排出とか、国のエネルギー問題とかが優先にはならないようお願いいたします。